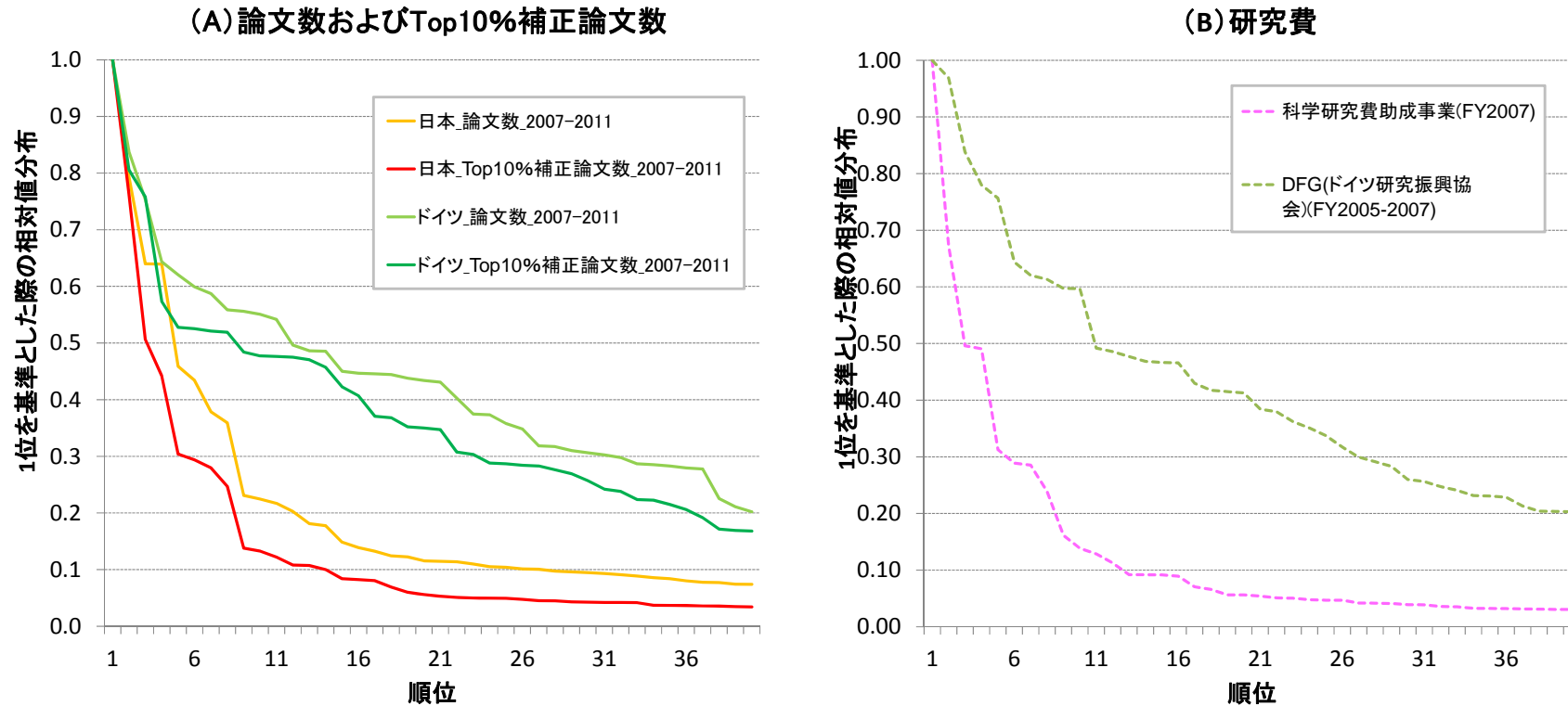


図 2 7 日・独の大学における論文生産数及び競争的資金の配分状況の比較

○ 大学毎の論文生産数や競争的資金の配分額について、日本はドイツに比べて上位校への集中度が高い傾向が見られる。

日本とドイツの大学システムにおける
研究活動の量的規模と質的規模の相対値分布（左図）と研究費の分布（右図）



(注) 論文数およびTop10%補正論文数：分数カウント法による集計。トムソン・ロイター社 Web of Science (SCIE, CPCI-S)を基に、科学技術・学術政策研究所にて集計。科学研究費助成事業：研究機関別配分状況一覧より研究者が所属する研究機関別採択件数・配分額一覧（平成19年度新規採択+継続分）を用いて集計。なお、平成19年度科学研究費のうち、「奨励研究」を除く研究課題（新規採択+継続分）の当初配分について分類したものである。

DFG: Funding Ranking 2009 Institutions - Regions - Networks, Table 3-2: Ranking analysis of the 40 HEIs with the highest volume of DFG awards 2005 to 2007 by funding programmeを用いて集計

出典：科学技術・学術政策研究所「研究論文に着目した日本とドイツの大学システムの定量的比較分析-組織レベルおよび研究者レベルからのアプローチ-」（2014年12月）

図 2 8 競争的資金における使い勝手の改善について

	項目	指摘	対応内容
1	費目構成の統一化	H23 AP H25 総合戦略 H26 総合戦略 H26 イハWG	・「府省共通経費取扱区分表」における取扱い(平成22年12月)を徹底
2	費目間流用ルールの一貫化		・平成26年3月に申し合わせた「費目間流用ルールの一貫化について」により対応
3	各種報告時期の延長による年度末までの研究期間の確保		・会計実績報告書、研究成果報告書の提出期限を延長し、年度末まで研究が実施出来るよう変更
4	使用ルールの一貫化		<ul style="list-style-type: none"> ・備品として管理するもの、資産として管理するものの金額を統一 ・消耗品やパソコン等について、研究費で買えるもの、買えないもののルールを統一 ・研究機器等について、リースのみを義務づけている事業について、購入も選択出来るように統一
5	研究機器の共用化	H23 AP H26 総合戦略	・購入した研究機器について、当該研究で必要な時間以外は、研究の実施に支障のないことを確認の上、他の研究での使用を可能化
6	複数研究費の合算による使用		・旅費の支払や消耗品の購入について、合算による使用が可能になるよう統一
7	様式の一貫化	H23 AP H25 総合戦略 H26 総合戦略 H26 イハWG	・報告書の様式を統一
8	使い勝手の改善に関する意見・相談窓口の開設		・内閣府の競争的資金のホームページに研究者からの意見、質問等を受け付ける窓口を年度内に開設し、一元的に対応

※ 上記について、H27.4以降に公募を開始する制度から実施